

【上北】六戸町立大曲小学校

内容 自分に必要な情報を得るための活動を通して、百科事典の使い方や、インターネット検索の方法を理解し、得た情報をまとめさせる。

【児童に提示した資料①】

日本の伝統工芸

- ① 種類 — 地図帳、伝統工芸 (ポプラディア情報館)
- ② 歴史 — ポプラディア百科事典、インターネット
- ③ よさ (みりやく) — ポプラディア百科事典、インターネット、新聞

4 学年国語「伝統工芸のよさを伝えよう」ではリーフレット作りがある。
調べる観点や方法として右の3点を提示したパスファインダーを作成した。

【児童に提示した資料②】

調べのヒント

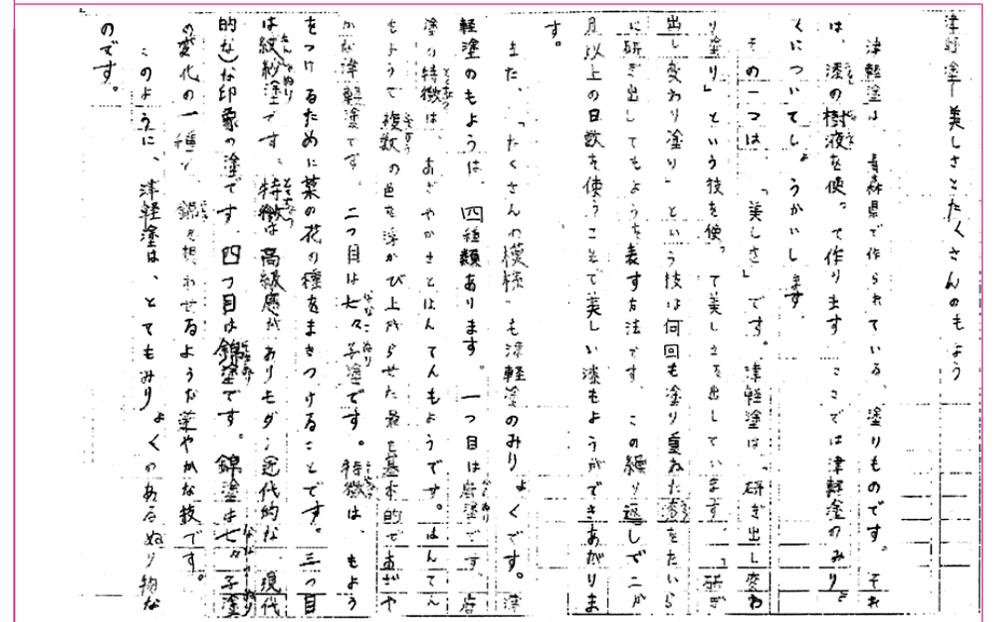
- ① 種類について
 - ・地図帳の記号(仮)を参考に。
 - ・調べた伝統工芸について、百科事典(伝統工芸)で調べる。
- ② 歴史について
 - ・百科事典で調べるときは、見出し語の頭文字の巻からさがす。
 - ・インターネットで調べるときは、「〇〇〇〇 ねほし」とキーワードを入れる。
 - ・分からない言葉の意味は、国語辞典で調べる。
- ③ よさ(みりやく)について
 - ・新聞記事の中から、特に目立って伝えられている内容をさがす。
 - ・つくられている県のホームページの、のっていることもある。(リンク)

「調べのヒント」をもとに下の順で活動した。

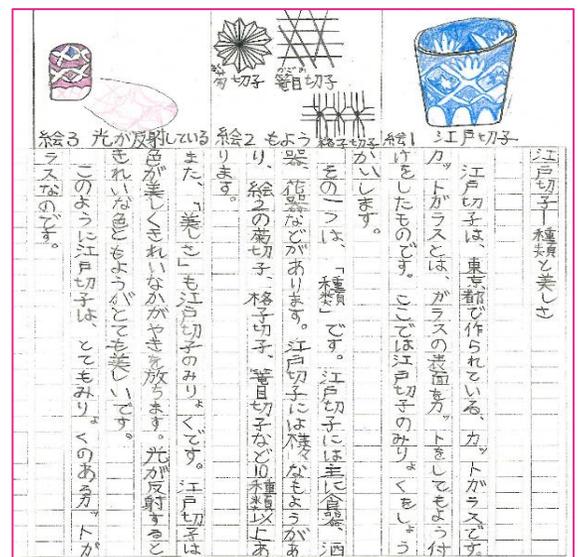
- ① 伝統工芸について興味をもつ
- ② 知りたい伝統工芸についての歴史を調べる
- ③ 選んだ伝統工芸のよさを周囲に発信するための情報を収集する
- ④ リーフレットにまとめる

成果と課題

- インターネット以外の調べる方法に興味をもち、百科事典に親しむことができていた。
- 百科事典の使い方を学んだことで、伝統工芸に関係することや、それ以外の事柄も調べようとする姿が見られ、児童の興味の幅が広がった。
- ▲自分が調べた情報の中から、必要・不必要を振り分けることが難しかった様子が見られたので、情報を分別するための「調べのヒント」を提示したい。
- ▲何にでもインターネットを使うのではなく、本や新聞記事等からも知識や情報を得られること、よさを感じられるような、紙媒体に親しむための課題提示の方法が今後の課題であると思われる。



〈児童が作成したリーフレット〉



【下北】東通村立東通小学校

内容（１）放送による読み聞かせ

毎週木曜日、給食の時間に放送で読み聞かせをしている。時間は10分程度。できるだけ時間内に読み終えることができる長さの本を選んでいるが、時間内に読み終えることができない場合は、次の日も読むことがある。放送で紹介した本は図書室の中で展示しておくことで、また読みたいと思った児童がいつでも読んだり借りたりできるようにしている。

内容（２）毎月の本の紹介

毎月、図書室以外の場所（子供たちがよく通るランチルームの壁面）で、その月に見合った本や新刊本、おすすめの本を月の季節に応じた装飾を加えながら紹介している。

内容（３）折り紙コーナー

折り紙の本、折り紙、テープ等製作に必要なものを準備し、子供たちが自由に作ることができるコーナーを設けている。お互いに教え合う微笑ましい光景が見られる。

内容（４）図書委員会による読書推進活動

図書室以外の場所に図書委員会のコーナーを設け、そこで図書委員のおすすめの本を紹介している。年に1～2回は読み聞かせも実施している。

【成果】児童の目に付く場所に本の紹介コーナーを設置したり、毎週、放送で読み聞かせをすることにより、児童が図書室を利用するきっかけとなった。さらに、展示した本と関連のある内容の本を探す姿も見られるようになってきた。図書委員のおすすめの本を写真付きで紹介したところ、立ち止まって見る児童が増え、図書室に足を向けてくれる児童も増えてきた。

【課題】高学年の図書室利用が減少傾向にあるため、興味・関心に合う本のリーフレット作成や、図書委員の活動としてクラスでの本紹介を行うなどの工夫を加えていきたい。授業等、各学級で図書の活用が増すよう、学級担任の先生方と積極的に連携を図りたい。



（１）放送による読み聞かせ



（２）毎月の本の紹介



（３）折り紙コーナー



（４）図書委員の本紹介

【三八】 八戸市立白銀小学校

内容① 学校司書との連携

昨年度から学校司書が配され、学校図書館の環境整備や図書の修理などが行われていた。今年度は、学校司書と連携を深め、学校図書館のさらなる活用を図るために次のような活動を行った。

(1) ブックトーク

学級担任がお願いしたテーマに合わせて、学校司書がブックトークを行った。

(2) 学校図書館の使い方

借りたい本の探し方や図書の分類のきまりなどの説明を、学校司書と司書教諭等が協力し、学年に応じて行った。

(3) 市立図書館との連携

学校にある本だけでは冊数や種類が足りなかった場合に、先生方の依頼を受け、学校司書が市立図書館から本を借りてきた。

内容② 本の紹介カードの展示

長期休業に読んだ本の中から自分のおすすめしたい本を選び、「本の紹介カード」を書く活動を全校で行っている。これまで学校図書館の壁面に掲示していたが、今年度は、より児童の目に留まりやすいように学年ごとにまとめて図書室のテーブルの上に置いて展示した。

成果と課題

- 児童や先生方に学校司書の取組を知ってもらうことができた。
- 学校司書と連携したことによって、児童の学習の理解が深まったり、主体的な読書活動につながったりした。
- 学校司書の専門的な知識を生かした図書資料のレファレンスを行ってもらうことができた。
- 友達が書いた本の紹介カードを見て興味をもち、同じ本を借りる児童が見られるようになった。
- 学校司書と学級担任がコミュニケーションをとる時間が確保できなかつたり、授業の関係で一緒に活動できなかつたりした。
- 学校図書館の蔵書が少なく、児童にとって魅力的な図書が少ないため、図書の充実を図っていきたい。



(1) 学校司書によるブックトーク



(3) 借りてきてもらった本を選ぶ児童



②本の紹介カード

【東青】平内町立平内中学校

内容（1）現在、図書室にある本を把握する

- ・青森県についての関連本が図書室にどのくらいあるのか、どのような本があるのかを集めて把握する。

内容（2）来年度、図書室で購入する本を決める

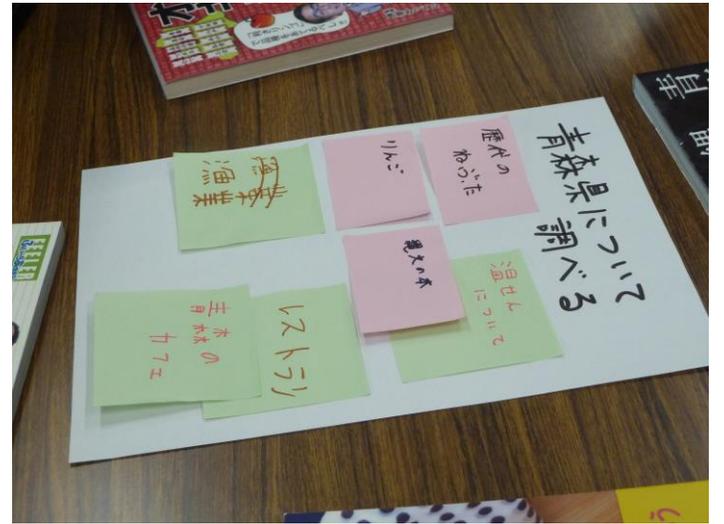
- ・青森県に関して調べるにあたり、どんなジャンルを調べてみたいか意見を出し合う。
- ・インターネットで、どのような本が販売されているのかを検索し、来年度購入する際の参考にする。

成果と課題

- ・図書の購入に関して、今後、生徒の視点で生徒が本を選定する活動につながるよい機会となった。青森関連の本以外にも生徒の購入希望を考える参考にしていきたい。
- ・授業で調べ学習をさせるための図書として、必要な本をまだ把握しきれていない。他の教員と連携して情報を得ていきたい。



〈関連本を図書室から探して持ち寄る〉



〈付箋に調べたい事柄を出し合う活動〉

【西北】 つがる市立柏中学校 (第2学年 国語科)

本時 (2 / 6 時間目)

単元名 郷土のよさを伝えよう 「地域の魅力」の紹介文

単元の目標 (主なもの)

- 目的や意図に応じて、身近な地域の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。 [思考力, 判断力, 表現力等] B(1)

設定した言語活動

- 集めた情報から伝えたいことを絞り込み、読み手に効果的に伝わるように推敲しながら、紹介文を書きあげる。

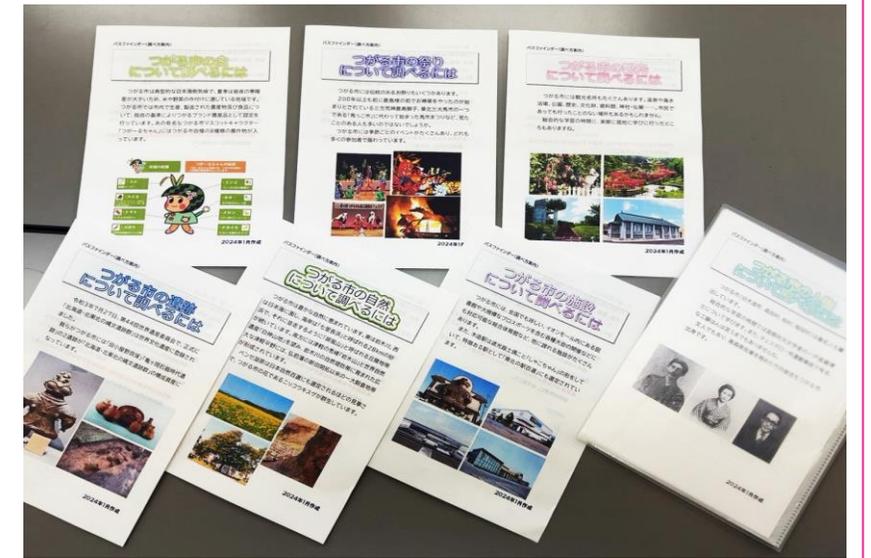
授業者の思い

「タウン誌に載せる記事として、地域の魅力を紹介する」という生徒たちにとって取り組みやすい内容にし、「つがる市のことを知らない人」という対象をはっきりさせることで、正しい情報を集め、それをもとに読む人の興味をひきつけるような文章を書かせたい。

そのためにパスファインダーを活用し、生徒たちに効率よく情報探索させるとともに、多角的な視点から複数の情報を集めさせたい。



〈パスファインダーを使う際の注意点を説明〉



〈調べるテーマごとのパスファインダー〉

【西北】 つがる市立柏中学校

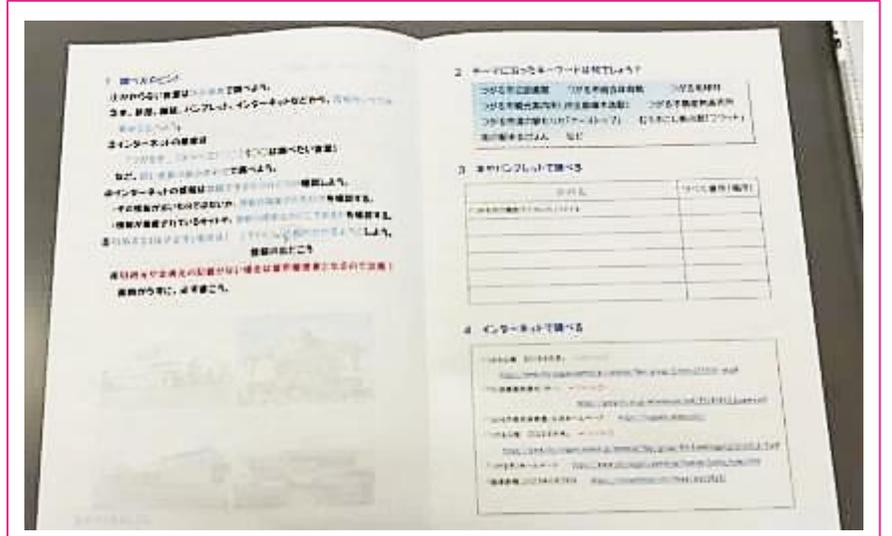
パスファインダー作成の手順

- ① つがる市について生徒が調べそうな内容や場所等を想定し、遺跡や施設などのパンフレットを集める。
(つがる市教育委員会の協力)
- ② パスファインダーの様式を作成し、テーマごとにキーワードを入れる。(生徒はテーマごとの班に分かれて調べる)

テーマ

遺跡	人物	観光
自然	祭り	食
		施設

- ③ テーマごとのキーワードに加えて、「図書名」「ラベル番号(場所)」「パンフレットのタイトル」等を載せる。
- ④ テーマごとにパスファインダーをそれぞれ作成し、クリアファイルに入れてまとめたものを班に用意する。



〈パスファインダーの内容：調べるヒント〉

1 テーマに沿ったキーワードは何でしょう？

田小屋野貝塚 亀ヶ岡石器時代遺跡 遮光器土偶 貝塚
北海道・北東北の縄文遺跡群 縄文時代 土器 など

2 本やパンフレットで調べる

タイトル	ラベル番号(場所)
つがる市型「郷土学」副読本	
青森縄文王国	210 サ (郷土)
土偶を読む図鑑	210 タ (郷土)
土偶を読む 130年間解けなかった縄文神話の謎	210 タ (郷土)
はじめての土偶	210 コ (郷土)
義虫放浪	721 モ (郷土)
「つがる市の遺跡パンフレット」ファイル	

〈パスファインダーの内容：キーワード、学校図書館の本のラベル〉

【西北】 つがる市立柏中学校

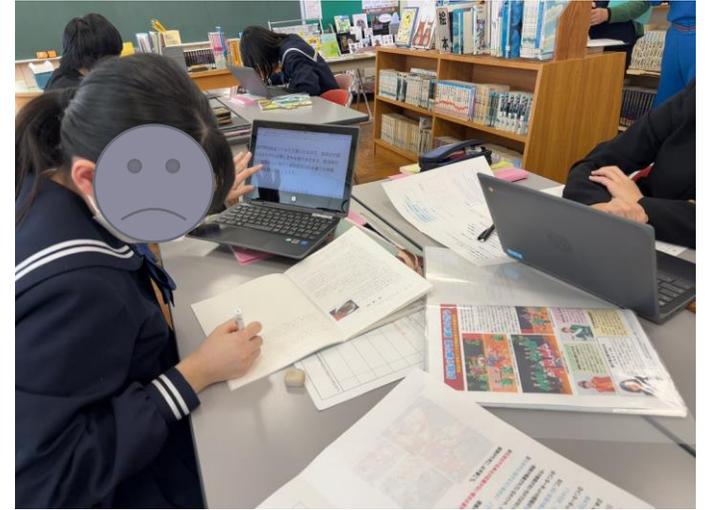
成果（●）と課題（◆）

生徒の反応から

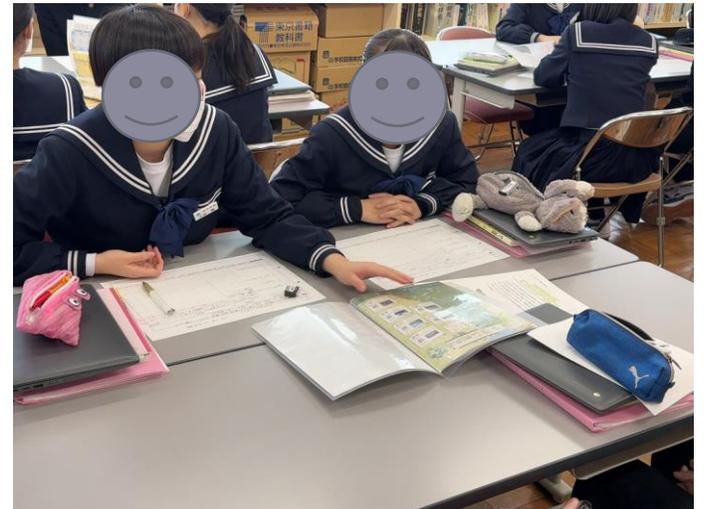
- 紹介文のイメージができている生徒はパスファインダーから資料をすぐを選択して必要な情報を手に入れることができていた。
- 紹介文のイメージができていない生徒は、手がかりを見つけるためにパスファインダーのキーワードやインターネットのサイトを見て調べることにより、イメージを明確にもつことができ、調べ学習が進んでいた。
- ◆ 調べ学習での活用に慣れることで、パスファインダーを効果的に活用してニーズに合う情報を手に入れることができるようになる。

実践後の展望

これまでも国語や美術、保健体育においても学校図書館を活用した授業を行っていた。今回と同様の様式でパスファインダーを作成することで、他教科並びに総合的な学習の時間における探究的な学習に大いに役立つと考えられる。パスファインダーを活用し、生徒自身が調べる目的に沿って、探究的な学習過程を繰り返すことにより、自己の将来に向けた主体的な学びにつなげることができる。



〈パスファインダーを参考にして調べる様子①〉



〈パスファインダーを参考にして調べる様子②〉

【中南】田舎館村立田舎館中学校

内容 学校図書館をさらに活用してもらうための取組

○学校図書館が活用されていない現状を少しでも改善するため、その第一歩として図書委員会による全校生徒への働きかけに重点的に取り組んだ。

(1)ポスター作成

・図書委員が自分で紹介したい本を選び、ポスターを作成。廊下や図書室内など様々な場所に掲示し、全校生徒に向けた読書啓蒙活動を行った。

(2)クリスマスに向けた館内装飾

・居心地のよい空間作りを目指し、図書と関連させた館内装飾に取り組んだ。

(3)図書だよりの発行

・生徒にとって関心度の高い勉強や進路に関する書籍、また、生徒から要望のあった書籍を積極的に新刊として入れ、その案内を図書だよりで発信した。

成果と課題

- 図書委員の生徒はポスター作りに熱心に取り組んでいた。初めは、装丁だけで本を選び、ポスターを作っていたが、どのような発信をすれば読書につながるかを考えて作成した。
- 図書室の飾り付けは、委員が様々なアイデアを出し活動した。また、校内放送で紹介したことで、全校生徒が図書室に足を運ぶきっかけを創出できた。
- 今回の活動を通して、図書委員が主体的に、全校生徒に向けた読書の啓蒙活動に取り組む姿勢が見られた。
- ▲限られた委員会活動時間の中で継続的に行うのは難しいが、図書と関連した館内装飾に関しては季節のイベントなどに合わせて、図書の展示と共に行い、回数を増やしたい。
- ▲今後は、調べ学習に活用できる書籍や授業に活用できる情報資料を収集するなどし、生徒だけでなく、先生方にも学校図書館を活用してもらえよう、働きかけたい。



〈ポスター作成の様子〉



〈飾り付けの様子と図書便り〉

【三八】 田子町立田子中学校

内容

総合的な学習の時間に、田子町について、自分で課題を設定し、その課題を調査して、レポートにまとめて発表させるという活動を行った。

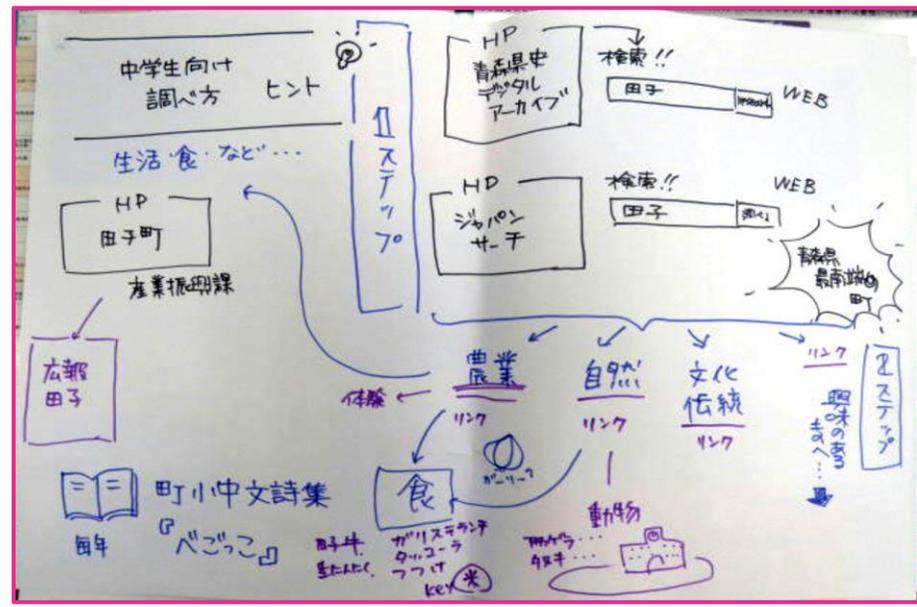
1. 田子町について調べる
2. 田子町について興味がある内容を書き出す
3. テーマを設定する
4. 研究仮説を設定する
5. 研究方法を検討する
6. 調査、まとめ
7. 発表



調べる際、図書室に郷土に関する資料があることを紹介した。また、今回の研修で先生方が調べてくださったパスファインダーを紹介し、インターネットで調べる際は、「青森県史 デジタルアーカイブシステム」や「ジャパンサーチ」などを利用するとよいということを紹介した。

成果と課題

- 調べ方のヒントを与えることで、どうやって調べたらよいか困っている生徒に対しては有効な手段であった。
- 調べようとしていたこと以外にも興味のあることが見付き、友達と楽しそうに共有する場面が見られた。
- 図書室には置かれている資料が限定されていた。時間があれば、町の図書館と連携して、資料をそろえておき、生徒が気軽に調べられるようにしてもよかった。



〈研修会で作成したパスファインダー〉

青森県の方言について

県は県内で使われている方言に、地域や年齢層で差があるのについて調べた。田子町では主に津軽弁が使われている。私は県内、更に田子町内の方言の違いや、年齢層によって方言の使用の有無が違ってくるのを知りたい。町内での方言の違いはないが、年齢層による違いはあるのかを調査してみた。

まず、方言の種類と使用範囲について調べた。あまのウェブサイトに「津軽弁」「下北弁」「南奥弁」の3つの種類があることが分かった。使用地域はそれぞれ津軽弁は津軽地方、下北弁はむつ市・下北郡・上北郡・野辺地町北部、南奥弁は青森県の東部・岩手県の北部及び中部・秋田県の東北部であることが分かった。ここで複数の県内での方言の違いについて、初めて知った。

次に町内の方言について知るために、津軽弁と他の2つの方言を比較してみた。以下がその結果と解説だ。

共通語	方言	津軽弁 (津軽方言)	下北弁 (下北方言)	南奥弁 (南奥方言)
私	わ、われ	わ	わ	わ
	おれ、おえ	おれ	おれ	おれ
	おら	おら	おら	おら
	おん	おん	おん	おん
	おん	おん	おん	おん

【津軽弁】私語では「お」を多用する傾向がある。主に男性が使う。また、最近では「おん」を使う人は少なくなっている。

【下北弁】川内町市街地(むつ市)・津軽町市街地では「お」を多用する。下北の北端には「おん」を使っているところがある。かつては津軽弁と似た発音だったが、現在の下北弁では「おん」を使う人はほとんどいない。

【南奥弁】女性で「おれ」を使う傾向が強い。津手、宮城、福島、山形でも女性がおれを使う。東北地方の方言で使われている。「おれ」は「おれ」・「おれん」・「おれん」とも発音される。

例文
 青森県の方言を比較してみました！
 Travel Note 南奥弁は津軽・岩手・秋田の一部で使われる方言！
 意味や発音もご紹介！
 地域・人を知る 方言 | 津軽弁と南奥弁

〈生徒が作成したレポート〉